

平成 29 年度「鹿大防災セミナー」報告

調査研究部門

防災に関する教育・研究や行政等の取り組みについて、本センターに係わる教職員および関係機関の情報交換や交流を目的に平成 25 年度から「鹿大防災セミナー」を実施している。以下、平成 29 年度に開催した第 16 回から第 19 回の概要を報告する。

第 16 回 平成 29 年 6 月 23 日（金）（担当：地震・津波災害分野 柿沼太郎 准教授）

講演

「累積的損傷を受ける構造物の耐震性能評価」

理工学域工学系 木村至伸氏

「地震による地盤災害～液状化と斜面崩壊～」

理工学域工学系 酒匂一成氏

概要

木村氏は、構造物の耐震設計について解説するとともに、平成 16 年の新潟県中越地震や平成 28 年熊本地震のように、本震とそれに引き続いて発生する余震によって累積的損傷を受ける構造物の耐震性能評価の手法などについて講演した。酒匂氏は、液状化の被害事例やメカニズム、対策について解説するとともに、地震による斜面崩壊の発生事例などについて紹介した。セミナーには、教職員、学生のほか、鹿児島地方気象台などの学外関係者を含めて 43 名が参加した。



質疑応答の様子

第 17 回 平成 29 年 8 月 8 日（火）（担当：放射線災害分野 松成裕子 教授）

講演

「原子力災害による健康影響—福島県の現状について—」 鹿児島大学病院看護部 土橋仁美氏

「鹿児島県における保健師の放射線に関する実態調査から」

メディポリス国際陽子線治療センター 松川京子氏

「噴煙柱崩壊で火砕流が発生する物理条件に関する理論・観測研究」

地域防災教育研究センター 石峯康浩氏

概要

土橋氏は、東京電力福島第一原子力発電所事故とそれによる放射線防護対策について解説するとともに、県民健康調査（外部被ばく線量の推計、甲状腺検査、健康診査など）について紹介し、複合災害による混乱が住民の不安や不信感を増幅させたこと、放射線被害とその防護対策に関する認識が不十分であったこと、リスクコミュニケーションの重要性を指摘した。松川氏は、県内外の保健師を対象に実施したアンケート調査結果について紹介、県間また市町村間で保健師の放射線に関する知識や認識に差が認められること、その差は原子力発電所の立地場所と関係し、放射線に関する教育や訓練が影響していることなどを報告した。石峯氏は、大規模な火山噴火で発生し、柱状に成層圏まで立ち昇る噴煙柱と、その噴煙から発生する火砕流の発生メカニズムについて説明するとともに、これらのメカニズムを解明するための物理モデルの開発状況と、そのモデルによる予測を検証するためのレーダーによる噴煙観測の有用性について紹介した。セミナーには、教職員、学生のほか、鹿児島地方気象台などの学外関係者を含めて44名が参加した。



土橋氏の講演の様子

第18回 平成29年11月6日（月）（担当：総合防災分野 黒光貴峰 准教授）

講演

「KTS防災プロジェクト イザ！カエルキャラバン」

KTS 鹿児島テレビ 渡司陵太氏

「リスクコミュニケーション～桜島大噴火を事例に」

南日本新聞社 桐野秀吾氏

概要

渡司氏は、KTS 防災プロジェクト「イザ！カエルキャラバン！」を紹介し、災害の多い鹿児島の放送局として防災を伝える様々な工夫について講演した。桐野氏は、イギリス留学で学んだ危機管理を基に、防災報道の役割と課題を整理し、桜島大噴火に備えてリスクコミュニケーションの重要性について講演した。セミナーには、教職員、学生のほか、鹿児島地方気象台などの学外関係者を含めて48名が参加した。

第19回 平成30年2月22日（木）（担当：水害・土砂災害分野 寺本行芳 准教授）

講演

「擁壁崩壊にともなう地盤内の変形メカニズムの評価」

農学系 平 瑞樹氏

「鹿児島県で発生した種々の地すべり事例」

(株) ホウセイ・技研 三田和朗氏